

みちのく民俗村は12月27日から1月4日までお休みです<m(_)_m>

今年一年

ありがとうございませした

令和3年も残りわずかとなりました。今年一年みちのく民俗村をご愛顧いただき本当にありがとうございます。スタッフ一同より感謝申し上げます。県内での武漢熱のピークも収まり、ほっとしているところですが、今年も残念ながら中止したイベントもあり、縮小しながらも開催できたイベントもあり、大きな事故もなく何とか一年を終えることが出来ました。イベントがなくなる事イコール皆さんとお会い出来る機会も少なくなることとなり、園内の整備やイベントの企画などにも力が入らなくなり、スタッフにとってもはさびしく感じるものなす。旧小正月に2年ほど行った雪灯りも中止となったイベントの一つですが、私たちスタッフが一番残念だったのが「旧暦七夕」でした。前々日に県の緊急事態宣言が発出され、前日から休園を余儀なくされ、イベントそのものが中止。今回は新企画もあり、いつも以上に張り切ったのですが、この時はやはり「セタロス」になりましたよ。正体が見えないものによつて閉園に追い込まれ、しかも隣の博物館は通常どおり開館。「何で？」が余計にモヤモヤとしたのでした。来年こそは新たな企画で皆様をお待ちしております。

私たちが運営しマ7年目。少しずつですが園内に子供たちの遊ぶ声が増えましたよ。来年度は、もっともつと元

来年度は、もっともつと元
気な声が響き渡るような民俗村にしたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



大好評！ひょうたんランプ

衆土市で「せをり織り」の展示をいらした八重樫信子さんが、民俗村の軒先にぶら下がったひょうたんランプを見まわらめいたという「ひょうたんランプ」。昔は水筒として使われていたひょうたんの新たな姿を創造した八重樫さんには脱帽です。

村人の皆様にはお知らせできなかったのは申し訳ありませんでしたが、HP上でお知らせしたところ、当初予定していた定員20名は瞬間にいっぱいとなり、キャンセル待ちも出なかつたことから講師にお願いし急遽2回開催となりました。材料となるひょうたんは、いつも民俗村に遊びに来まくれている地元の八重樫久昭さんが趣味で作ったもの。小ぶりですがありますが、今回の工作にはその可愛さが打つまつけでしま〜

親子で参加の方が多く、会場の茶屋は賑わっていました。うちのスタッフも多少お手伝いはしましたが、お子さんたちも楽しそうでした。底の部分に穴をあけ、やすりで形を整え、LED電球を取り付けると完成です。灯りが漏れる小さな穴にビーズを埋め込んだり、本体に色を塗ったり絵を描いたり個性あふれるひょうたんランプが完成しました。外では雪が降り真っ白な世界になりますが、家の中マやさしい灯りがそれぞれの家庭を彩つてくれることでしょう。皆さん大事に使ってくださいね！

来年もまたひょうたんが出来たら企画したいと思えます。その時は村人の方々に真っ先にお知らせしたいと思いますので、ぜひご参加ください。



お正月のトランプ出陣



出来たぜ かやぶきの家！

前号でお伝えしましたが、公益社団法人北上市青年会議所さんの事業で、みちのく民俗村との合同で「縄文風住居」づくりを12月1日に行いました。指導に当たったいたたく横手市の「佐藤茅草店」スタッフ3人が前日から資材搬入と骨組みを作り、準備しました。材料のキヤは、市内の小菅工務店さんが茅草補修用にと倉庫にストックしまおいたものをだいぶ前にいただいたものでした。骨組みとなる丸太は、稲刈り後に稲を乾すためのほによをつくる、いわゆる「田杭(たぐい)」で余分にあったもの。当日は残念ながら雨模様でしたが、数日前から民俗村スタッフがシートで屋根をかけたので作業には支障がありませんでした。朝9時から茶屋で座学を行い茅草屋根について簡単な説明を受けた後、いよいよ屋根作り作業開始です。屋根素材のキヤ・いわゆるススキを下段から並べ、表側と裏側とで声を掛け合いながら縄をかけた針(金属製)を通して積み上げたキヤを縛っていきます。片面5段ずつになりましたので両面が10段。昼食をはさみ午後3時頃まで続けられました。仕上げの棟部分は佐藤茅草さんにお願ひし、杉の木の皮をのせマ完成です。竪穴住居の裏にアリアマース(※) <



なしろうぐみ?

園内旧小野寺家の庭先にある1本の常緑樹。博物館管理時代につけられた樹木銘には「ナワシログミ」とあります。苗代を作るころ、5月〜6月頃に実が赤く熟すことからつけられたようです。この辺りでは「ナシログミ」。図鑑を見ると関東以西に分布しているようだが、誰かがここに植えたのだろう。花期は晩秋とあり、白いツリガネ状の花が咲き、香りが強いらしいがあまりにひっそりと咲いていたので気づきませんでした(ー!)

春には実が赤くなりますが、渋くマおしくないそう。「いやいやグミつまぐらいだから旨いに決まってる」つまぐら?うちの職員が実証済みですけれどそれでもつま方は自己責任でどうぞ(ー!)



『つぎなにつくろう』

キット販売中

昨年、今年と民俗村まつりで好評だったコーナー。秋田県横手市の佐藤茅草店が主催する「ラフトづくりイベント『つぎなにつくろう』」。昔ながらの「手づくり」コンセプトが民俗村にもマッチすること、今後もがっちりつなごうと、今後は「鉛筆づくり」や「小さなホウキづくり」のキットを販売しているとのこと、さっそく民俗村で取り扱うことにしました。セットの中には作り方の説明書のほか動画が見られるリンクも書かれていますので、初めマの人でも安心です!冬休みの工作や、冬ごもりの人にもおすすりめです。年明けは5日くらい!



竹スキー

つくろうぜい!



月いぬはよろこびにわかけまわり、ねこはコタツでまるくなる♪ さあ、皆さんはどうっ派? 昨年に引き続き園内では雪の滑り台を作るべく、スタツフは張り切つておりますが、ここ民俗村に相応しい、じいちゃんばあちゃんが懐かしくと泣いて喜び「竹スキー」を作つてみようを企画しました。聞くところによると作ったスキーで北京五輪前哨戦の冬季オリンピック「民俗村アルペンスキー大会を開催する予定とか?」なお、出場者にはもちろん景品が用意されるようです。定員10名、参加費500円です。さあ風の子 元気な子 あつまれ!



さをり織りマフラー

ひょうたんづくりで講師をされた八重樫さん。実は花巻で「さをり織り」の教室を開いている方なんです。さをり織りは今から50年前、城みさをさんという日本人女性によつて生み出されたもので、規則正しく織ること、繊細な模様を作り出すという従来のスタイルにとらわれず、正統な織物なら「傷もの」と呼ばれる独特な模様やゆがみなど、「差異を織る」という意味の「さをり織り」を考案しました。さをり織りには織り図がなく、色や織り方、織り機、素材など制約がありません。これまでの織物のルールである均一性やパターン化から抜け出した、いわば真逆の表現方法を追究した自由な織り方とのこと。最近ものづくりにこだわっている民俗村で、個性輝くさをり織りに挑戦してみましよう。



期日...1月23日(日)
場所...展勝地茶屋(民俗村)
料金...300円(昼食含む)
定員...8名
持ち物...ハサミ、メジャー
申込先...みちのく民俗村

バードカービング教室

恒例になりました、自然豊かな民俗村でのバードカービング教室。講師は自然観察会でご存じ鈴木清明さんバチバチ。今年は「黄色の冬鳥・マヒワ」です。本来ならぶるぶる震える体験工房ですが、スタツフ佐藤の冬ごしらえで室内はポッカポカでお待ちしつております。



日本野鳥の会北上支部様と共催です。お申し込みは講師鈴木清明さん(0974-67594)まで。
期日...2月2日(水)・3日(木)から毎週水・木の全6回
午前9時〜午後3時まで
場所...みちのく民俗村体験工房
料金...300円(材料・資料代)
定員...15名
持ち物...筆記用具、切出しナイフ、彫刻刀、マスク、作業着、昼食など

民俗村のここが見どころ

いも爺がお勧め!

みちのく民俗村って何があるの?という方にお勧め。ボランティアガイドさんに案内いただくのも良いが、ガイドがないのかわからない方は「いも爺」へ。演舞場の前の旧北川家のわきにある紙芝居風の「いろはカルタ」東屋だ。12枚のパネルに計48ヶ所の見所を紹介されているので必見。しかし、この場所は喫煙場所になつてしまっているため、喫煙者は要注意!
(登り窯などすでに無くなつてしまっているものもあります。悪しからず)